

2018年度東京音楽大学・神戸女学院大学共通科目  
第3回ミュージック・コミュニケーション講座

# 公立文化施設がなぜ アウトリーチをするのか？

90年代後半から日本で行われるようになった「アウトリーチ」という手法は、現在「アーティストを派遣する」という形だけが一人歩きしつつあると言われていています。公立文化施設がなぜ「アウトリーチ」をやるのか？小学校での事例をベースに、期待される効果やその課題について一緒に考えましょう。

講師

衣川 絵里子

Kinugawa Eriko



～講師プロフィール～

西宮市フレンテホール副館長、相愛大学音楽マネジメント学科非常勤講師。  
1982年兵庫県生まれ。神戸大学発達科学部卒。神戸新聞松方ホール、門真市民文化会館を経て、2010年4月～2018年3月まで神戸市立灘区民ホールでディレクターとして事業の企画・制作等を担当。事業予算がほとんどない中、助成金などの獲得をはじめ小学校へのアウトリーチ事業実施のために、クラウドファンディングも活用。アウトリーチ事業は、2013～17年度の5年間で延べ10490名（全122回）の子どもたちに実施した。2017年7月に起業、西宮市フレンテホールの指定管理者に選定され、2018年4月より同ホール副館長に就任。

2018. **6.8.Fri.** 14:00～15:30

神戸女学院大学音楽学部 合奏室

インターネット・ビデオ会議システムで神戸女学院大より東京音楽大学へ配信  
聴講をご希望の方は神戸女学院大学連携ルーム(M29室)までお申込ください  
TEL 0798-51-8588HP <http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/renkei/>